

# かお・人・interview

2021年10月8日

所長

インタビュー



国土交通省 九州地方整備局  
阿蘇砂防事務所 所長

## 吉田桂治氏

keiji YOSHIDA

阿蘇砂防事務所は、熊本復興事務所が担っていた阿蘇砂防事業を引き継ぎ開設された。土石流対策のために作られる堰堤は25基。建設予定地には「阿蘇カルデラ」を中心とした、牧草地、森林など独特な自然が広がっている。個性豊かな景観を守りつつ、環境に配慮した砂防堰堤の計画には3次元モデルを活用。建設プロセスの効率化を目指す。現在取り組んでいる事業や課題などについて吉田所長に話を伺う。

### Q所長就任にあたっての抱負

阿蘇山の直轄砂防事業は平成30年からスタートしており、これまで熊本復興事務所が担当してきました。今後、事業をさらに推進するために阿蘇砂防事務所が設置され、阿蘇カルデラ内の直轄砂防工事と併せて、阿蘇山の火山砂防調査を所掌しております。

全国で砂防事業を担当する直轄事務所としては41番目の事務所として仲間入りすることになりました。一方、この3月に閉所した雲仙復興事務所は、現場ニーズから無人化施工が発展し、日本の砂防技術のみならず土木技術の大きなレガシーとなったところでもあるため、当事務所も九州の直轄砂防事業をリードできるよう、しっかりと現場のニーズを汲み上げ解決を図っていきたいと思っています。災害の多い阿蘇地区、そして活火山阿蘇山も所掌しているため、地域の安全・安心確保のためにしっかりと取り組んでいきたいところです。



▲阿蘇私立阿蘇西小学校で行われた阿蘇砂防開所式

### Q九州や福岡県とのかかわり

九州地整には平成17～18年度に、本局で直轄砂防事業担当の建設専門官で勤務しました。その当時は宮崎県に甚大な被害を出した台風14号による土砂災害や、梅雨前線豪雨による川内川の洪水被害、桜島の昭和火口の活動再開等、相次ぐ災害がありました。まだTEC-FORCEの制度がなかったため、災害が発生するたびに真っ先にヘリに乗って現地に乗り込み、直轄砂防のエリアだけでなく補助砂防のエリアも含めて復旧・復興に向け奔走したことが記憶に残っています。

平成28年度からは三重県いなべ市に副市長で在職しました

## 新しい技術を取り入れながら 九州の直轄砂防事業をリードできるよう、 しっかりと現場のニーズを汲み上げ 解決を図っていききたい。

が、就任早々熊本地震が発生し、地震被害の大きさと現地の混乱状況を踏まえ市長から「いなべ市で支援することができるメニューを調査せよ」との命を受け、防災担当職員数名と支援物資を積み緊急車両で益城町等に入りました。その後、いなべ市からは保健師を派遣し、避難住民の健康管理につなぐことができました。

また、熊本市では、災害対策本部に陪席し被災直後の自治体が抱える課題を直接知る機会にも恵まれました。実は、この時益城町で現地を歩き、宅地の盛土被害や住宅の液状化被害が顕著に表れていたことから、かつて在籍していた本省都市局の宅地防災担当者へと被害の第一報を入れ、その後本省からの被害状況調査が進んだと聞いています。



▲四ツ江川砂防堰堤完成セレモニー

### Q 当事務所の紹介

直轄事業区域は阿蘇カルデラ内で阿蘇市、高森町、南阿蘇村にまたがって

おり、これまでも昭和28年、平成2年、平成24年と大きな土砂災害が発生しているエリアとなっています。令和9年度までを目標に、熊本地震で崩壊が拡大した流域からの土石流対策をすすめており、約150億円の事業費で25施設程度の砂防施設を整備していく予定であります。

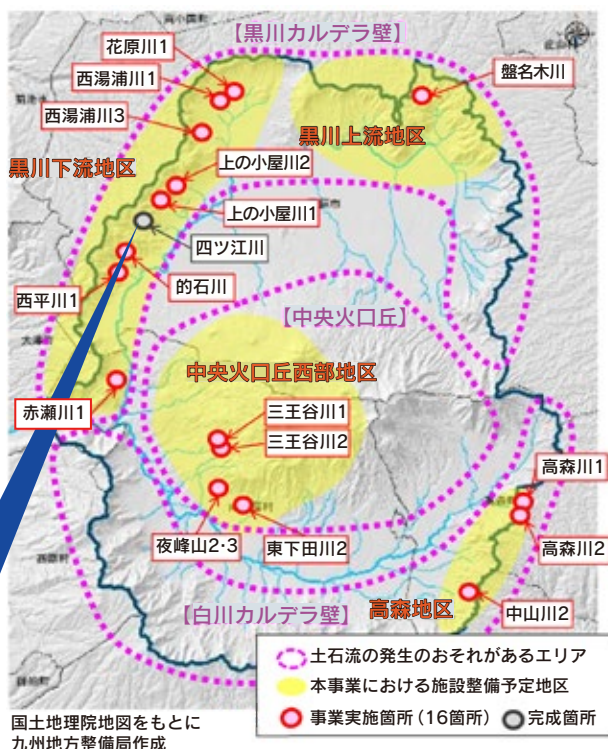
現在も活発な火山活動が続いている阿蘇中岳では、直近でも平成28年10月の爆発的な噴火が発生していますが、噴火発生時の降灰調査等、噴火に起因する土砂災害対策に資する調査を進めてまいります。

### Q 今年度の事業概要

平成30年度に直轄砂防事業に着手して以来、この3月には初めての砂防堰堤が完成しています。引き続き、今年度は約19億円の事業費で、16箇所において工事や測量・設計を進めていく予定です。砂防堰堤は多くの現場でソイルセメントを堤体を使用し、ICT施工も活用し、効率的な砂防工事を進めてまいります。

今年度からBIM-/CIM活用ガイドラインに基づき、3次元データで測量と設計をつなぐ取り組みも始めます。

事業実施箇所位置図（令和3年度）



### 阿蘇直轄砂防事業

事業期間	平成30～令和9年(予定)	令和元年 当初	約23.6億円	約31.4億円
		補正	約7.8億円	
全体事業費	約150億円	令和2年 当初	約23.6億円	約23.6億円
		補正	約9億円	
事業内容	砂防堰堤等25施設程度を予定	令和3年 当初	約19.2億円	約28.2億円

## 四ツ江川砂防堰堤の流れ



▲着工前



▲Ⅰ期工事：令和元年7月～令和2年3月



▲Ⅱ期工事：令和2年4月～令和3年3月

## Q 地域との連携・協働について

阿蘇地域は、世界文化遺産登録を目指しており、その文化的景観の価値を損ねないよう、特に草地といった阿蘇特有の景観に配慮した砂防施設の整備を進めていきたいと考えております。また、土砂災害や火山噴火災害に対する防災教育の面でも、教育機関だけでなく阿蘇火山博物館といった文化教育施設とも協働していきたいところです。

## Q 地域建設業への要望・メッセージ

平成26～27年度に中部地整富士砂防事務所長をしていた際には、担い手確保の取り組みを地元建設業者と進め、現場見学会、快適トイレの現場導入推進、そして女性が働きやすい職場環境を目指して官民を超えた「女子会」を開くなどしましたが、熊本でも引き続き担い手確保に向けた取り組みを続けていきたいところです。

また、同じ時期、今ではBIM/CIMとなっている3次元モデルについても、地元建設業者、測量業者、ITベンダーとのコラボを後押しした結果、狭隘な施工現場の3D可視化による危険予知の取り組みなど全国でもトップランナーとなるきっかけとなっており、このような意欲的な提案について一緒に進めていきたいと考えています。

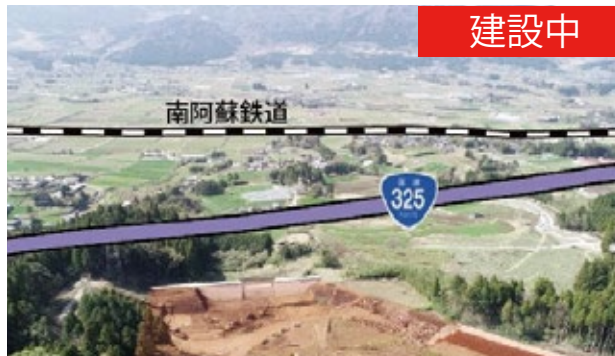
## Q 趣味や健康法について

登山などのアウトドアに親しんでいましたが、富士砂防事務所在職時に、一眼レフの写真撮影に目覚めました。富士山が目の前あるロケーションでしたので、その



▲四ツ江川砂防堰堤

完成



▲上流側より 東下田川2砂防堰堤

建設中

姿を撮らないのはもったいないと思ったからです。それからは、年々カメラ機材がグレードアップ。四季折々の富士山を追いかけました。夏のご来光、冬は雪の頂から日の出となるダイヤモンド富士等々。貴重な一瞬を撮るために、暗いうちから動き出し目的の場所に向かっていました。赴任した阿蘇は雲海が有名です。これから秋にかけてシャッターチャンスに恵まれるよう楽しみにしています。

いなべ市在職時に、そば打ちやサイクリングも始めました。特にそば打ちでは阿蘇市波野高原産のそば粉は風味も良く、気に入ってます。阿蘇では登山を含めカメラ、そ

そば打ち、サイクリングもすべて楽しめますので、さらに腕を磨いていきたいと思えます。

## プロフィール



出身地：岩手県  
生年月日：昭和47年9月25日（48歳）  
H 9年4月 建設省入省 関東地方建設局 日光砂防事務所  
H11年4月 和歌山県土木部砂防課  
H13年5月 農林水産省林野庁 森林整備部 治山課 地すべり係長

H15年4月 東北地方整備局 岩手河川国道事務所 調査第一課長  
H17年4月 九州地方整備局 河川部 建設専門官  
H19年4月 新潟県土木部 砂防課 副参事（土砂災害防止推進担当）  
H21年4月 東河川局 防災課災害査定官  
H22年4月 JICAインドネシア派遣専門官  
H24年4月 都市局 都市安全課 都市防災対策推進室企画専門官  
H26年4月 中部地方整備局 富士砂防事務所長  
H28年4月 三重県いなべ市副市長  
R 2年4月 水管理・国土保全局 砂防部保全課 土砂・洪水氾濫対策官  
R 3年4月 現職